



## 三角形の角の二等分線

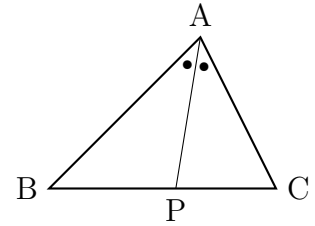
三角形の角の二等分線とそれによって、分けられる対辺の比についての定理を紹介する。

定理.  $\triangle ABC$  に対して、 $\angle A$  の二等分線と、辺  $BC$  の交点を  $P$  とする。

このとき、次が成り立つ。

$$AB : AC = BP : PC$$

言い換えると、点  $P$  は、辺  $BC$  を  $AB : AC$  に内分する点である。



証明. 右図のように、点  $C$  を通り、直線  $AP$  と平行な直線と、直線  $AB$  の交点を  $D$  とする。

平行線の同位角が等しいことから、 $\angle BAP = \angle ADC$  が成り立ち、  
平行線の錯角が等しいことから、 $\angle CAP = \angle ACD$  が成り立つ。仮定から、直線  $AP$  は、 $\angle A$  の二等分線なので、 $\angle BAP = \angle CAP$  である。以上を合わせて、

$$\angle ADC = \angle ACD$$

を得る。よって、 $\triangle ACD$  は二等辺三角形となり、

$$AD = AC$$

が成り立つ。これと、直線  $AP$  と直線  $DC$  は平行であることから、

$$BP : PC = BA : AD = AB : AC$$

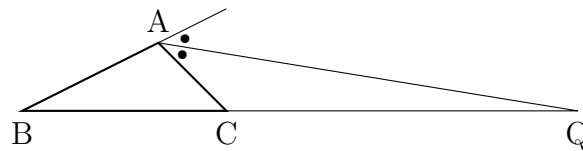
が従う。 □

このように、内角の二等分線から、対辺の内分点が得られることがわかった。同様に、外角の二等分線から、対辺の外分点が得られることを証明しよう。

定理.  $AB \neq AC$  である  $\triangle ABC$  に対して、頂点  $A$  の外角の二等分線と、辺  $BC$  を延長した直線の交点を  $Q$  とする。このとき、次が成り立つ。

$$AB : AC = BQ : QC$$

言い換えると、点  $Q$  は、辺  $BC$  を  $AB : AC$  に外分する点である。

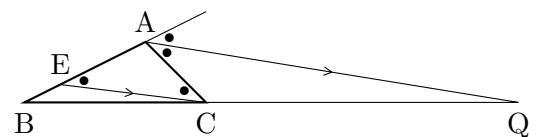


証明. 右図のように、点  $C$  を通り、直線  $AQ$  と平行な直線と、直線  $AB$  の交点を  $E$  とする。

内角の二等分線の場合の証明と同様にして、平行線の同位角や錯角が等しいことを用いると、 $\triangle ACE$  が二等辺三角形となることがわかるので、 $AC = AE$  が成り立つことが従う。これと、直線  $AQ$  と直線  $EC$  は平行であることから、

$$BQ : QC = BA : AE = AB : AC$$

が従う。 □

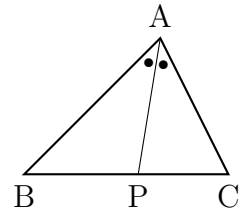


上で紹介した2つの定理と、スチュワートの定理<sup>1</sup>を合わせることで、同じ仮定のもとで違う形の結果が得られる。証明方法は同じなので、内分点に関する結果だけ証明する。

定理.  $\triangle ABC$  に対して、 $\angle A$  の二等分線と、辺  $BC$  の交点を  $P$  とする。  
このとき、

$$AB \cdot AC - BP \cdot PC = AP^2$$

が成り立つ。



証明.  $AB : AC = m : n$  とおくと、上の定理から、 $BP : PC = m : n$  が成り立つので、スチュワートの定理から、

$$n(AB^2 - BP^2) + m(AC^2 - CP^2) = (m + n)AP^2 \quad (1)$$

が成り立つ。ここで、

$$nAB = mAC, \quad nBP = mPC \quad (2)$$

に注意すると、(1) 式の左辺は、

$$\begin{aligned} n(AB^2 - BP^2) + m(AC^2 - CP^2) &= n(AB + BP)(AB - BP) + m(AC + CP)(AC - CP) \\ &= (AB + BP)(nAB - nBP) + (mAC + mCP)(AC - CP) \\ &= (AB + BP)(mAC - mPC) + (nAB + nBP)(AC - CP) \\ &= m(AB + BP)(AC - PC) + n(AB + BP)(AC - CP) \\ &= (m + n)(AB + BP)(AC - PC) \end{aligned}$$

と変形できる。これと (1) 式を合わせて、等式

$$(AB + BP)(AC - PC) = AP^2 \quad (3)$$

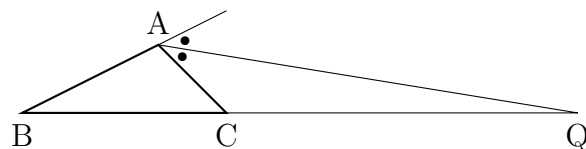
を得る。さらに、(2) の2つの等式から、 $AB \cdot PC = BP \cdot AC$  がわかるので、(3) の右辺は、

$$AB \cdot AC - AB \cdot PC + BP \cdot AC - BP \cdot PC = AB \cdot AC - BP \cdot PC$$

と計算できる。よって、結果が従う。 □

定理.  $AB \neq AC$  である  $\triangle ABC$  に対して、頂点  $A$  の外角の二等分線と、辺  $BC$  を延長した直線の交点を  $Q$  とする。このとき、次が成り立つ。

$$AB \cdot AC - BQ \cdot QC = -AQ^2$$



<sup>1</sup>スチュワートの定理

定理. 

- $\triangle ABC$  に対して、辺  $BC$  を  $m : n$  に内分する点を  $P$  とするとき、次が成り立つ。

$$n(AB^2 - BP^2) + m(AC^2 - CP^2) = (m + n)AP^2$$

- $\triangle ABC$  に対して、辺  $BC$  を  $m : n$  に外分する点を  $Q$  とするとき、次が成り立つ。

$$-n(AB^2 - BQ^2) + m(AC^2 - CQ^2) = (m - n)AQ^2$$